

学校訪問シリーズ 101

大分市立碩田学園から学ぶ

学校経営から学ぶ

学校の教育目標「夢と希望をもち、21世紀を生き抜く児童生徒の育成」を達成するため、育成を目指す資質・能力を「自己肯定感・自己有用感」「他者とかかわる力（コミュニケーション力、人間関係調整力）」「探究力（協働（対話等）による課題解決力）」と定め、義務教育9年間を見通した、連続性・系統性を重視しながら学校経営を行っています。

特に本年度は、「つなぐ・つながる」をキーワードに目標や組織をつくり、それぞれの教職員の相互理解を深めながら、義務教育学校の効果が発揮できる実践が行われつつあります。

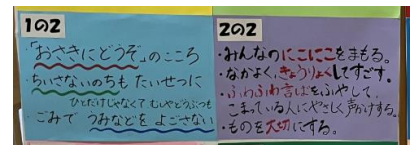
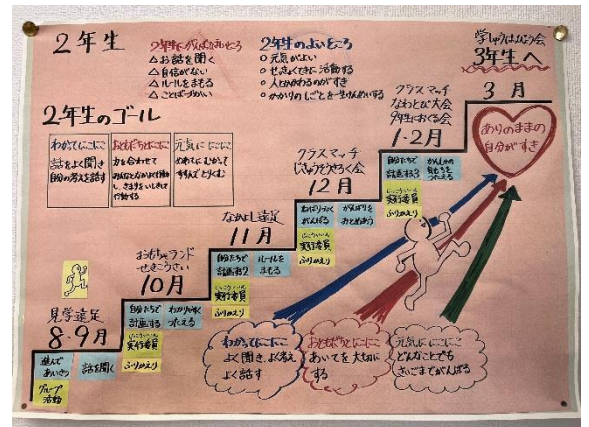
今後は、学校が育成を目指す資質・能力について、前期、中期、後期の具体的な姿をイメージすることで、それぞれの取組を行う際、教職員だけでなく保護者や地域、子ども達自身も、どのような力をどこまでつけるために行うのかという目標が明確になり、より「つなぐ・つながる」実践になると思いました。

授業から学ぶ

2年生の教室は、子ども達の価値や良さを写真や言葉（価値語）で示しており、さらに、先生は子どもの発言を共感的に聴いているので、子どもたちは発言しながら友達の考えをつないでいました。

7年生の英語では、男女ともに仲良く学び合いながらも、評価の観点を明確にしたルーブリックを用意していたので、聴く姿勢がとても良かったですね。それぞれの指導案には、生徒指導3機能について明示しており、日常的に「つなぐ・つながる」ことを意識した実践が行われていますね。

なお、「振り返り」は教師が願う具体的なゴールの姿を「子どもが実際に書くような言葉」で表示してみると、「ねらい」との連動や評価規準との整合性がより明確になり、授業改善がより推進されると思いました。



NO.550 2022年12月 大分市立碩田学園

優しさをつなぐ

「お先にどうぞ」優しい思いが伝わるから、安心して発表できる。共感的に聴くことができる。



NO.553 2022年12月 大分市立碩田学園

笑顔をつなぐ

拍手はされた人も、した人も共に笑顔になる。笑顔がつながると、それぞれ自分らしさが出せる。



NO.552 2022年12月 大分市立碩田学園

価値をつなぐ

友達の発表の良い点を参考にしながら、自分の発表に生かす。だから、真剣に観察する。



NO.551 2022年12月 大分市立碩田学園

思いをつなぐ

発表者の方を向きながら「がんばれ」「すごいよ」「私と同じ」「少しちがう」と、思いを伝える。